

**令和5年度第1回志太榛原圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議 会議録**

日 時	令和5年7月24日（月） 19時00分から20時30分まで
場 所	藤枝総合庁舎別館2階第1会議室
出席者 職・氏名	<p><b>【委員】</b>          錦野光浩委員、露木義章委員、石川英也委員、上野暢一委員、天野雄一郎委員、宮下宝子委員、大井陽江委員、高鳥徹也委員、嵐口弘敏委員、岸本史弘委員、鈴木佐知子委員、小谷幸代委員</p> <p><b>【市町・県】</b>          島田市長寿介護課長 中山和彦、同包括ケア推進課長 大久保勉、焼津市介護保険課長 萩原雅顕、同地域包括ケア推進課長 杉山広晃、藤枝市介護福祉課長 杉村成美 同地域包括ケア推進課長 伊久美佳代、牧之原市長寿介護課長 植田伸也、吉田町福祉課長 増田稔生子、川根本町高齢者福祉課長 竹野克彦          中部健康福祉センター所長 土屋正純、中部保健所長 岩間真人、中部健康福祉センター副所長 山本泰洋</p> <p><b>【事務局】</b>          中部健康福祉センター 山本福祉部長、森上医療健康部長ほか          県庁福祉長寿政策課地域包括ケア推進班 内野室長、          高齢者支援班安本主査</p>

1 審議事項	
(1) 議題	
① 認知症施策について ② 自立支援、介護予防・重度化防止について ③ 次期の県保健医療計画及び県長寿社会保健福祉計画における在宅医療分野の策定 ④ 介護人材の確保について	
2 審議内容	
協議事項① 認知症施策について	
協議事項について説明	
説明者 福祉長寿政策課地域包括ケア推進班 内野室長	
資料3により、認知症施策について説明	
所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>この内容の御質問、あるいは委員の皆様が認知症施策につきまして日頃から現場で認識されているような現状や課題を御発言いただきたい。</li> <li>認知症家族会の小谷委員、御意見、取組、または質問等あるか。</li> </ul>
小谷委員 (認知症家族会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の認知症に対する理解が不十分である、認知症の人への支援、理解という意味では、これは内容が若年性認知症なので、全般的に多い高齢</li> </ul>

	<p>者の認知症とは違いがあるのだが、ツールとして映画があると思う。39歳で若年性のアルツハイマーと診断された丹野智文さんが主人公（発症してから10年位経つ）の「オレンジ・ランプ」という映画を見た。その方の認知症になってからの苦勞、工夫、周りの家族や知人の様子が描かれている映画。内容的にご本人に基づいた映画なので、具体的でこういう事で困る、こういう接し方をされるとつらいとか、認知症になった人も家族、友人、同僚、地域の人がどういう風に接したらいいのか、サポートできるのか、具体的で分かりやすく作られていると感じた。時間も100分ちょうど。見やすい映画だと思うので、理解を深めるのに有効であると思う。若年性の認知症をはじめ、周りがどういう風にサポートしていったらいいのか、共に暮らしていけるのか、認知症の方々に優しい社会とはどんなだろうかと思えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業協賛だったが、その企業の印象はとても良くなった。出来たら学校、企業とか公民館とかでそういう映画を見ていただきたい。「映画で知る」というのも入口としては敷居が低くて良い。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今の映画は映画館でご覧になられたのか。</li> </ul>
<p>小谷委員 (認知症家族会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映画館で見た。同じ映画会社が以前認知症をテーマとした「ケアニン」という映画も作成していて、焼津の図書館等で見たことがある。身近なところで無料で見た経験があるので、同様にできればいいと思う。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県でも上映会を開催しているが、著作権等がかなり厳しい部分があるとも聞き及んでいる。このようなツールもあるということで、参考にさせていただきたい。</li> <li>・ 病院の観点から、榛原総合病院の大井委員、認知症について、御意見はあるか。</li> </ul>
<p>大井委員 (榛原総合病院)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政ではいろいろ計画をたてているが、なかなか進んでいない。絵に描いた餅のような気がして仕方がない。市町における住民主体の移動支援があるが、それを市町がしっかり聞いて、支援する具体策をお願いしたい。認知症の人が悪化していて、地域におり、島田の病院に行く時に市町が送迎してくれる訳ではなく、病院の先生に「今からタクシー乗せます。」と連絡し、タクシー運転手に「そこまでお願いします」と依頼する。そういうことを誰に頼めばよいのか。帰りも行きと同じで「お薬はこう変更となります。今からタクシー乗せます。」と先生から連絡があると私たちはタクシーの到着を待つことになる。</li> <li>・ 認知症のお母さんと精神病の息子2人だけで生活している場合もある。</li> </ul>

	<p>住民の理解も必要だが、皆様の理解も必要。こういう例は必ずしも少数ではないと思う。そういう実態も理解していただきたいと思う。</p>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しい意見だと思う。</li> <li>・ 移動支援については、元気な高齢者にも課題となっている。私は以前、富士健康福祉センターにおいて、山間部の移動支援について、こういう会議で意見が出た。福祉だけで解決できる問題ではないという意識を行政で持たなければいけないと考えている。こちらで出来ることは手をつけなくては行けないと、県でもモデル事業を実施したりしている。今頂いた意見を行政側がどのように理解をしてこの計画をどのように作っていくのかということなので、参考にさせていただきたい。</li> <li>・ 訪問看護ステーションの宮下委員、実際に訪問をされている立場から、認知症についていかがか。</li> </ul>
<p>宮下委員 (訪問看護ステーション)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に訪問している立場からは、包括支援センターもかなりがんばってくれているが、発見が遅れるパターン、地域でも問題行動となるパターンがある。いち早く発見して、地域での見守り等につなげていくにはどうしたらいいのか。地域で見守り体制を作って、こういう人たちを支えていくことが、課題である。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問看護のお立場からお話を伺った。施設介護の立場から特別養護老人ホーム施設長の鈴木委員いかがか。</li> </ul>
<p>鈴木委員 (特別養護老人ホーム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の方はかなり大勢入所されている。やはり早めの対応が必要。夜間は70人の入所者を2人で看ることになり、お一人につききりになることは難しい。</li> <li>・ 認知症の方が、施設等に通うことに慣れていただくとスムーズに受入れが出来る。実は今日も通所の方が「外に出たい」と職員を殴って外に出てしまった。また今度ショートに来る方について、担当が生活をお預かり出来ないのでは断りたいとの意見があったが、やはり一度お預かりしてみないと分からないから、まずは1泊来てもらうように話をした。受入れる側も認知症の重度の方を受入れることになるので、デイサービスに行くなどいろいろと慣れて頂ければ、本当に困ったときにお預かりできるのかなと思う。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症施策については、やはり早期発見、早期対応が必要と御意見があったが、県の指標のなかでかかりつけ医認知症対応力研修等、具体的な取組について御紹介できることがあるか。</li> </ul>

内野室長 (地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症対応力研修ということで、かかりつけ医が出ているが、かかりつけ医だけではなくて、歯科医、薬剤師、病院勤務看護師、病院勤務以外の看護師等、各種の専門職を対象とした認知症対応力向上研修を実施している。通常と変わったところを早めに発見して専門の医師等につなぐ窓口となっていただくことを期待している。</li> <li>・ 本年度も既に始まっていて、今後順次開催される。周囲の方にお声掛けいただいて、積極的な御参加をお待ちしている。</li> </ul>
② 自立支援、介護予防・重度化防止について	
協議事項について説明 説明者 福祉長寿政策課地域包括ケア推進班 内野室長 資料4により、自立支援、介護予防・重度化防止について説明	
所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ただいま説明のあった自立支援、介護予防・重度化防止について、皆様の現場で認識されている率直な感想、現状課題を話していただきたい。</li> </ul>
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各段階における地域リハビリテーションについて、急性期は在宅ではなく入院ということで考えてよろしいか。予防期と回復期、生活期が在宅となるということでよろしいか。</li> </ul>
内野室長 (地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 御指摘のとおり、急性期については急性期病院、回復期は回復期病院からその先へ、生活期、予防期が在宅。</li> </ul>
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問看護師がリハビリテーションをすることがあるかもしれないが、リハビリテーション専門職の育成と書いてあるが、在宅ないし地域のリハビリテーションに関わっているリハビリテーション専門職、PT、OT等がどれくらいいるのか。</li> </ul>
内野室長 (地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PT、OT、STが実際どれくらいいるのか、手持ちがないが、研修を受講し、「通いの場」に参加していただきたいという位置づけにしている「地域リハビリテーション推進員」の方は全県で約500名いる。その方々に活動をしていただいている。</li> </ul>
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職種は具体的には何か。</li> </ul>

内野室長 (地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーション専門職、3職種です。</li> </ul>
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーション専門職、3職種の方が全県で500名くらい活動しているうち、志太榛原地域にどれくらいいるか。</li> <li>活動報告は受けているのか。研修を受けただけで活動していない方がいたら、意味がないと思う。</li> </ul>
内野室長 (地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>志太榛原圏域の数字は手元にはないが、全県8医療圏ごとに広域支援センターを設置しており、専門職の派遣の調整をいただいている。派遣調整の実績は全県で3,000件くらいある。活動報告も健康福祉センターを経由して提出していただいている。</li> </ul>
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>志太榛原圏域の広域支援センターはどこか。</li> </ul>
内野室長 (地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼津の甲賀病院です。</li> </ul>
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>島田市内ではリハビリテーションが必要なのに受けられない人がいる。リハビリテーションをやった方が良い方が対応出来ていないという状況が結構多い。島田市以外でも多分そうだと思う。</li> <li>STについては焼津のおおとみクリニックに1人だけいらっしゃるの、対応してもらっている。専門職育成云々と書いてあるが、実際どれだけいて、どれだけの人が活動しているか、実際のニーズと比較して足りないのかどうか確認するべき。少なくとも専門職がどれだけいて、地域で活動している方がどれだけいるのかを把握しないと「育成する」と言っても絵に描いた餅になってしまう。</li> </ul>
内野室長 (地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の専門職の資格取得については県の別のセクションで担当している。地域リハビリテーションについては、それぞれ養成された専門職の皆様が地域リハビリテーションの研修を受けていただいて、市町が実施する事業で人材を活用していただく。つなぎの業務となっている。</li> </ul>
所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考資料2の16ページに、実際に活動している方の数字ではないが地域リハビリテーションのサポート医と推進員の数字が市町ごとにある。地域リハビリテーションのサポート医は全県132人、志太榛原圏12人、地域リハビリテーション推進員については全県462人、志太榛原圏では34</li> </ul>

	人です。
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格だけあっても、実際に活動してもらわないと意味ない。活動報告を出して頂いて、そういう事が他の先生方に分かれば、もっと協力してもらえる先生方や専門職の方も増えてくると思う。</li> </ul>
所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございます。今の御意見を踏まえて、他に御意見はあるか。</li> </ul>
錦野委員 (志太医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤枝市では、リハビリテーションをやるようになっていて、往診をしていると週1回リハビリテーションが入っているところが多い。藤枝市は割に訪問看護、訪問リハビリテーションをやっている。</li> <li>藤枝市、訪問看護、訪問リハビリテーションの状況はどうか。</li> </ul>
伊久美課長 (藤枝市地域包括ケア推進課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤枝市の訪問リハビリテーションの給付の実績は年々上がっている。</li> </ul>
錦野委員 (志太医師会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>往診に回っていると週1回くらいでリハビリテーションが入っていると感じているので、島田市とは状況が違うと感じる。</li> </ul>
所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療の現場からの御意見をありがとうございます。社会福祉協議会の方からは何か御意見はあるか。</li> </ul>
岸本委員 (藤枝市社会福祉協議会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問リハビリテーションに関しては当方の事業所ではなかなか対応できていない所もある。相談員、支援サポートセンターの支援をいただいて、なるべく実績が上がるようにしていきたい。</li> </ul>
所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼津市の地域包括支援センターではいかがか。</li> </ul>
高鳥委員 (焼津市中部地域包括支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問リハビリテーションについては、地域包括支援センターとして訪問看護ステーションを通じてかなり活用している。</li> <li>通いの場の活用については焼津市で”ころばん体操”を普及していくということで、地域包括支援センターとしても地域の集まり等と一緒にやったりしているが、自主的に継続して集まる事は難しい。</li> </ul>

所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的な集まりは難しいという御意見がありました。居宅介護事業所の方ではいかがか。</li> </ul>
嵐口委員 (第2開寿園居宅介護支援事業所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションともに利用の頻度は高くなっている。藤枝市に関しては本当に高くなっている。退院時に訪問看護ありきで導入することも多いし、状態によって訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションを使い分けている。リハビリテーションの利用促進をしている事業所も多い。</li> </ul>
所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤枝市、焼津市と話を聞けた。先ほど露木委員から島田市のお話があった。島田市から何か取組等紹介できることはあるか。</li> </ul>
大久保課長 (島田市包括ケア推進課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>包括ケア推進課ではリハビリテーションの専門職に関しては業務委託をしている。介護予防、出来るだけ早期の対応ということで、介護サービス、介護予防サービスに専門職の派遣をしている。</li> </ul>
③ 次期の県保健医療計画及び県長寿社会保健福祉計画における在宅医療分野の策定	
協議事項について説明 説明者 福祉長寿政策課地域包括ケア推進班 内野室長 資料5により、次期医療計画（在宅医療分野）策定について説明	
所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅医療圏の決定の話があったが、各医師会から意見はないか。焼津市医師会の石川委員いかがか。</li> </ul>

<p>石川委員 (焼津市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身は毎月 50 件くらい往診をしている。ここには載っていない資料だが、志太榛原圏域で総人口 45 万人のうち、高齢者人口は 14 万人で高齢化率は 30%を超えている。</li> <li>・ 訪問看護ステーションについて、志太榛原圏域の計画では 22 ヶ所になっているが、焼津市では 11 ヶ所訪問看護ステーションを抱えている。数的には非常に多くなってしまっている。ひとつひとつは大型ではなくて、2 人ないし 3 人が働いている状況になっている。私は県訪問看護ステーション協議会の理事を 7、8 年やっていた。その時には 4 年間で 12 ヶ所の訪問看護ステーションが潰れている。作ったはいいが、どんどん潰れているという状況である。行政から「在宅が増えるよ」と言われ、一生懸命作ったのだが、今のところ、焼津市に関しては箱物がしっかりしているので、なかなか下においてこない。団塊の世代が在宅においてこない。先週も「訪問看護ステーションを潰してはいけない」と焼津市にお願いした。どこが問題なのか、看護師が入っても辞めてしまう状況について、行政ではどう把握しているのか。今後この方向性はどうするのかを聞きたい。</li> <li>・ 宮下委員、どうですか。県の状況はどうなっていますか。</li> </ul>
<p>宮下委員 (訪問看護ステーション)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県全体の状況は分かりかねるが、訪問看護ステーションは、必要ということで、小規模で作られているところが多い。病院から在宅へ、終末期、実際に訪問看護の現場では緊急で呼ばれる事が多い。難病の方もおられる。</li> <li>・ 小規模の訪問看護ステーションを維持するのは、かなり大変だと思う。小規模が集まってひとつになれるかというところも難しい。今、県訪問看護ステーション協議会でも「どうしたら潰さずに済むか、在宅を支えていけるか」話合っているが、なかなか難しい。全国的な流れでもある。</li> </ul>
<p>石川委員 (焼津市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数年前県訪問看護ステーション協議会にいたときも、合併をして淘汰しているという状況であった。他市町の状況は分からないが、行政としてはどうか。「在宅へ在宅へ」という流れは最近あまり言わなくなった気がする。こちらをお聞きしたい。</li> </ul>



<p>内野室長 (地域包括ケア推進班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「在宅へ在宅へ」という流れは現在もある。病院のベッド数が増える事は無いので、御指摘のあった団塊の世代への対応でも必要である。</li> <li>・ 訪問看護ステーションの数は大分増えている。課題は、人工2.5のギリギリで立ち上げているところが多い。1人欠けてしまうと基準を切ってしまうところが多いと承知している。一方で行政主体ではなく民間が立ち上げているところが多いのも現状である。</li> <li>・ 現在、県と市町で訪問看護ステーション立上げの初年度経費の補助を行っているが、大きい事業所も小さい事業所も一律でやっている。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科医師会、薬剤師会の動きや、専門的な立場から御意見はないか。</li> </ul>
<p>上野委員 (焼津市歯科医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問診療は増えていると思う。かかりつけ歯科医が訪問診療することが一番良いと思っている。口腔内の経過をよく知っているかかりつけ歯科医は口腔内の変化も予測出来る。在宅でセルフケアの不可能な方や、施設の方にも訪問が必要な時には、第一にかかりつけ歯科医に連絡をして欲しい。</li> <li>・ 歯科衛生士の活用をお願いしたい。口腔ケアのプロである。口腔ケアをしっかりやっていると介護予防、認知症予防につながるという報告もあるので、歯科衛生士の活用をお願いしたい。</li> </ul>
<p>天野委員 (焼津市薬剤師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤師会から見ると、石川委員のように在宅をがんばられる先生は少ない。これから「在宅が増える」という話があったが、なかなか増えなかった。薬局では、衛生材料を置く委託事業もやったが、ほとんど増えずにしぼんでしまった。今後はそれをもう一度、ふくらますようにがんばっている。</li> </ul>

<p>露木委員 (島田市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問看護ステーションを最初に作る時の費用の助成について、早急にや って欲しいと思う。</li> <li>・ 実際に私の元同僚も一昨年、訪問看護ステーション作って、一年で潰れ た。知り合いでも数年前に島田市に建てて潰れている。インターネット で訪問看護ステーションを立ち上げるのに最初は3人で十分と言ってい るからということもある。一番は採算の問題。正直、訪問看護ステー ションは24時間対応でないと十分な活動がなされないし、ケアマネジャー からも敬遠される。3人で24時間365日対応するとすれば、週に2日か ら3日、夜勤をやることになる。最初は日中の件数が少ないかもしれな いが、ある程度増やさないと採算が取れない。そう考えれば、現実問題 として3人の事業所は無理。ある先生は3人では無理ということで10人 でスタートした。今の働き方改革等を考えても当たり前のこと。ただや はり、採算が10人でスタートしても難しい。行政の方で思い切って助成、 最初だけでなく継続した患者の数に応じたある程度の助成が必要ではな いか、早急に検討していただきたい。</li> <li>・ 実際に私の診ている人工呼吸器を付けている患者さんは毎日3カ所の訪 問看護ステーションを入れている。そのうちの藤枝市の訪問看護ステー ションが24時間対応出来なくなって、他の2カ所は人数が少なく、24 時間対応は出来ないため、今後どこにお願いしようかと困っている。今、 焼津市の大きな事業所に声をかける予定。小さいところは24時間対応は 大変。個人的には合併もいいのかなと思う。</li> </ul>
<p>内野室長 (地域包括ケア推 進班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在県の医師会館に駐在している。隣りに県訪問看護ステーション協議 会があり、よく情報交換をしている。</li> <li>・ 今まで訪問看護ステーションに雇われていた方が独立することが結構あ ると聞く。協議会の方は「人数が少ないと大変、もっと人を集めたほう がいい」と助言するが、独立する方はある程度自分に自信がある方が多 いので、なかなか助言は聞き入れてもらえないらしい。本人がいくらや る気でも、周りが付いてこれない場合には、1人欠けるともう、基準の 2.5人工を切ってしまうというケースがあると聞いている。少なくと も最初、お客さんが付くまではアシストするという意味で助成している。 露木委員から継続的という話があったが、それは本来診療報酬で賄わ れるべきなので、そこは県の補助には馴染まない。</li> </ul>

<p>露木委員 (島田市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先ほど天野委員から訪問診療をやっていただける医者が少ないという話があった。開業医の先生が24時間、日中外来の患者を診て、ある程度安定している訪問診療の患者を24時間診るということは、さすがに無理。そこは「訪問看護ありき」で考えていかないと訪問診療に携わろうという医師も増えることがない。この先、働き方改革で若い医師は24時間365日働けますかという時代ではないので、多職種連携、まずは訪問看護を充実させることが、訪問診療をやってくれる医師を増やすことにつながると思う。</li> </ul>
<p>協議事項④ 介護人材の確保について</p>	
<p>協議事項について説明 説明者 中部健康福祉センター福祉課 鈴木班長 資料6より、令和5年度介護人材確保対策事業一覧について説明</p>	
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域の課題と掲げてあります介護人材の確保について、県の事業について説明した。職場定着、新規就業、外国の介護人材の活用等介護人材の確保を進めてきているが、まだ十分な人材を確保出来ていない。</li> <li>現況や取組に対して、率直な御意見をお願いしたい。</li> </ul>
<p>鈴木委員 (特別養護老人ホーム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護人材は本当に不足している。求人票を出しても来ない。どの事業所も直接ハローワークに求人を出すだけでなく、仲介業者が入ってくる。今の人はインターネットで求人を探すので、仲介の業者が目聡く、人材を確保してしまっている。仲介業者が「いい人材がいます」と事業所に紹介するが、紹介料が大変高い。介護士さんの年収の30%等。1人の介護士さんを採用するのに100万くらいかかる。看護師さんになれば、もっとかかる。1人の人を採用するために非常にお金がかかっている。いろいろ補助金制度があるのは分かっているが、採用は難しいという現状がある。</li> <li>当法人では技能実習生、インドネシアの方が入っている。日本語も堪能で丁寧な介護をしている。この地域では技能実習生を入れている事業所は少ない。西部や東部は積極的に入れているところが多い。近隣は入っているとは聞いていない。そういう点も老人福祉施設協議会で話をしている。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居宅介護事業所はどうか。</li> </ul>

<p>嵐口委員 (第2開寿園居宅 介護支援事業所)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホームと同じでケアマネジャーが人材不足である。ケアマネジャーの高齢化が問題となっている。ケアマネジャーの仕事の魅力を伝え、自分たちの施設でケアマネジャーの試験を受ける方を養成しながら、ケアマネジャーの数を増やしていこうとしている施設もある。藤枝市では介護支援専門員研究会でケアマネジャーが不足していくという課題・現状を受け止めながら、色々な方法をケアマネジャー間で考えていく取組を作りつつある。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センターはいかがか。</li> </ul>
<p>高鳥委員 (焼津市中部地域 包括支援センター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアマネジャーの募集を何年も出し続けているけど、来ない。現実的にケアマネジャー養成研修の受験資格が変わり、養成の数自体が減っている。高齢になって辞められてしまうと、その後が補充出来ない。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲介業者が入るといった話があった。報道でも話題となっている。短期間で紹介された職員が辞めてしまうと聞いている。</li> </ul>
<p>鈴木委員 (特別養護老人ホ ーム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャンセル料制度はあるが、採用後半年以上過ぎていけば、キャンセル料は支払われない。200万近くかけた紹介料は戻ってこない。</li> </ul>
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技能実習生について、志太榛原圏域はあまりいないということだが、令和5年度は新たな県の取組として、モンゴルの人材を活用マッチング促進ということで、現在、県の部長と介護保険課長がモンゴルの現地に行っている。</li> <li>・ 他に意見がなければ、ここで終了する。何か意見があれば、意見用紙に記入して提出して欲しい。</li> </ul>
<p>追加意見</p>	
<p>鈴木委員 (特別養護老人ホ ーム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護人材については、まだ不足しているが、確保するための対策がなされている。介護人材不足の陰に隠れているが、ケアマネジャーの確保について、高齢化している、更新の負担があるということから問題としている事業所も多い。ケアマネジャーについても対策を望む。</li> </ul>